

キヤノン電子株式会社

CANON ELECTRONICS INC.

2025年第1四半期 決算説明

2025年 4月 23日（水）

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

◆2025年第1四半期実績

P 3～12

◆2025年見通し

P 13～16

2 0 2 5 年第1四半期実績

2025年第1四半期概況

- 当社を取り巻く市場環境は個人消費や設備投資を中心に堅調な回復がみられたが、米国関税等の政策、地政学リスク等、先行きは不透明な状況
- レーザープリンター部品・ユニットは、アジア圏を中心に販売が堅調に推移
海外生産拠点を含めて増産
- 本体のミラーレスカメラ販売堅調により、当社のシャッターユニット、絞リユニットの販売も堅調に推移
- ドキュメントスキャナー製品はインド・中南米で金融機関向け商談が活発、米国では在庫調整が進み販売が増加。一方、欧州地域は販売が伸び悩む
- 販売数量増加・販売価格上昇により営業利益は増加したが、円高による為替影響、部材・人件費の高騰によるマイナス影響あり
- 防衛省から受注した実証衛星の製造・試験は準備が進行中

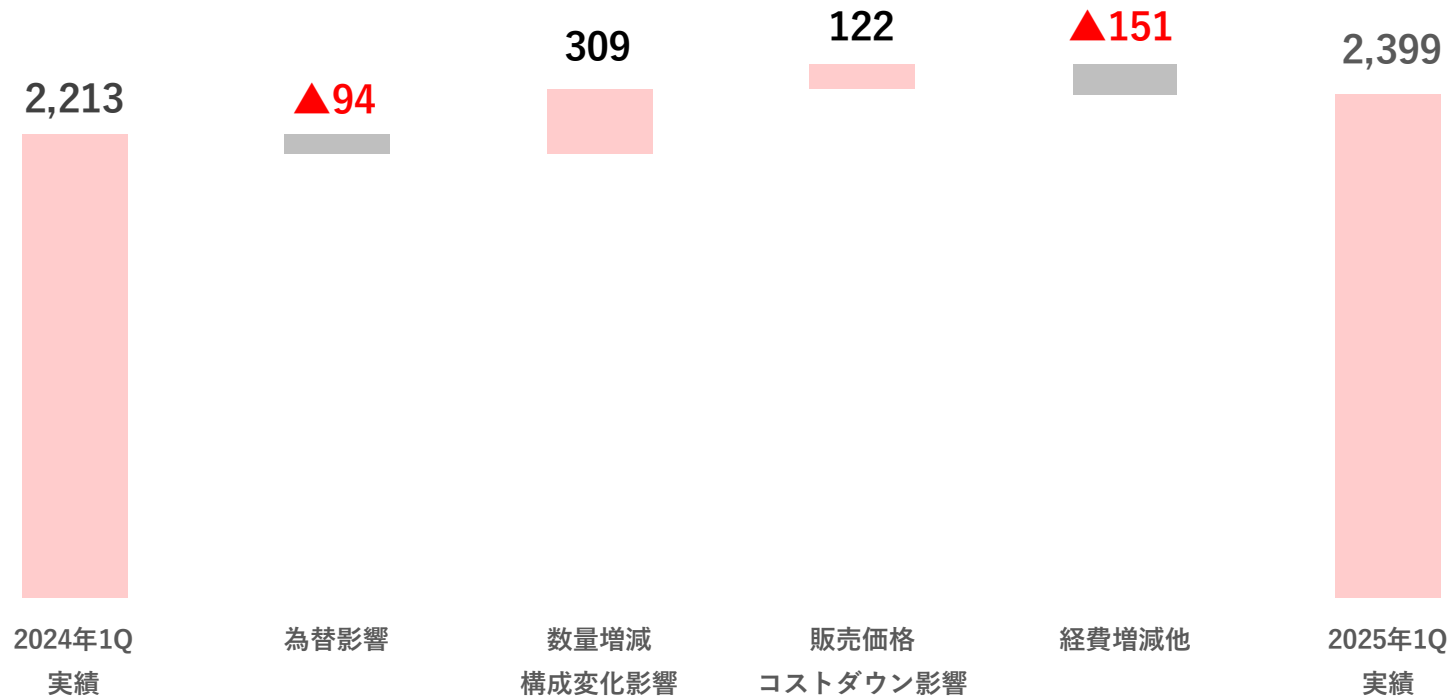
業績ダイジェスト

(単位：百万円、%)

	24年1Q 実績	25年1Q 実績	差 異	
			増減額	増減率
売上高	22,450	24,278	1,828	8.1%
売上総利益 (売上総利益率)	4,486 (20.0%)	4,757 (19.6%)	271	6.0%
販管費	2,273	2,357	84	3.7%
営業利益 (営業利益率)	2,213 (9.9%)	2,399 (9.9%)	186	8.4%
経常利益 (経常利益率)	2,064 (9.2%)	2,043 (8.4%)	-21	-1.0%
税引前利益	2,497	2,096	-401	-16.1%
純利益 (純利益率)	1,951 (8.7%)	1,579 (6.5%)	-372	-19.1%

営業利益分析

(単位：百万円)



- 利益増加要因：レーザープリンター部品、カメラ部品を中心に販売数量が増加
物価上昇による売価見直しによる増加
- 利益減少要因：円高によるマイナスの為替影響、人件費等の経費増加

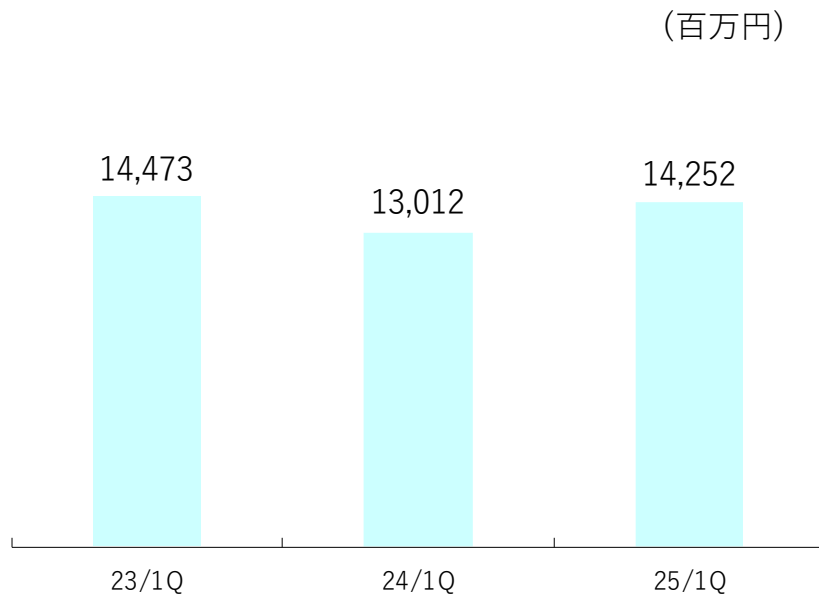
セグメント別PL

(単位：百万円、%)

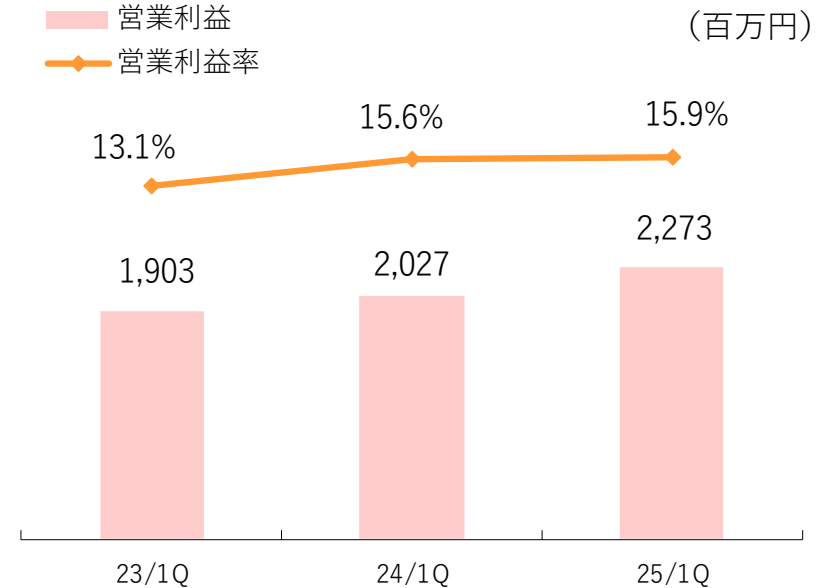
		24年1Q 実績	25年1Q 実績	差 異 増減額 増減率	
コンポーネント	売上高	13,012	14,252	1,240	9.5%
	営業利益 (営業利益率)	2,027 (15.6%)	2,273 (15.9%)	246	12.1%
電子情報機器	売上高	6,559	6,997	438	6.7%
	営業利益 (営業利益率)	383 (5.8%)	330 (4.7%)	-53	-13.8%
その他	売上高	2,878	3,028	150	5.2%
	営業利益 (営業利益率)	291 (10.1%)	258 (8.5%)	-33	-11.3%
連結消去	営業利益	-488	-463	25	-5.1%
連結合計	売上高	22,450	24,278	1,828	8.1%
	営業利益 (営業利益率)	2,213 (9.9%)	2,399 (9.9%)	186	8.4%

セグメント情報 コンポーネント

売上高



営業利益

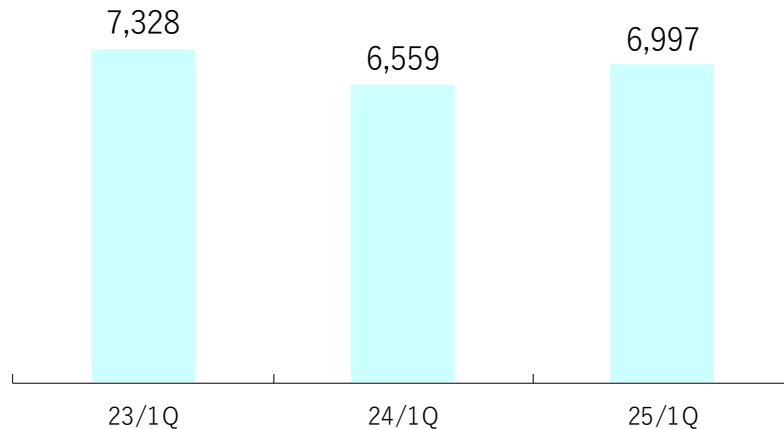


- 売上高：前年同期比＋9.5%、レーザープリンター部品・ユニットはアジア圏を中心に需要が増加、ミラーレスカメラ本体好調によりカメラ部品増産
- 営業利益：前期比＋8.1%、為替影響による輸入部品高騰、人件費増加の影響を受けたが、販売数量増加、売価見直しにより利益増加

セグメント情報 電子情報機器

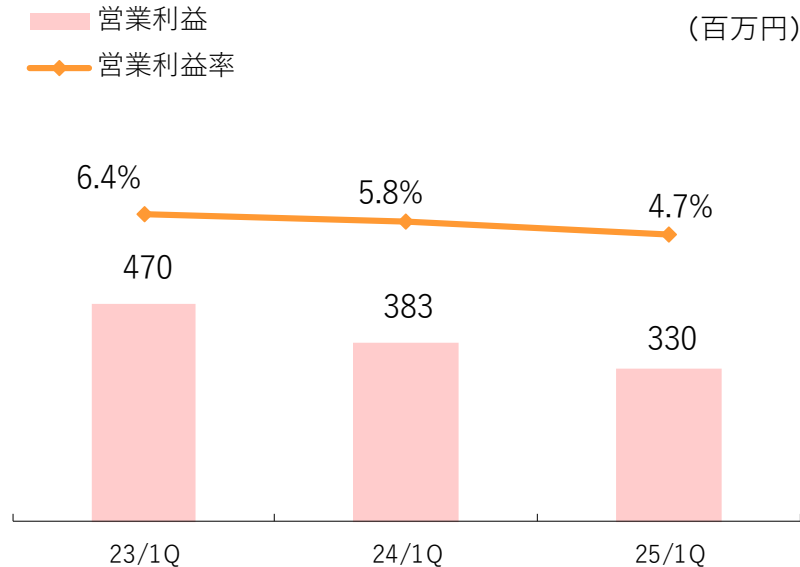
売上高

(百万円)



営業利益

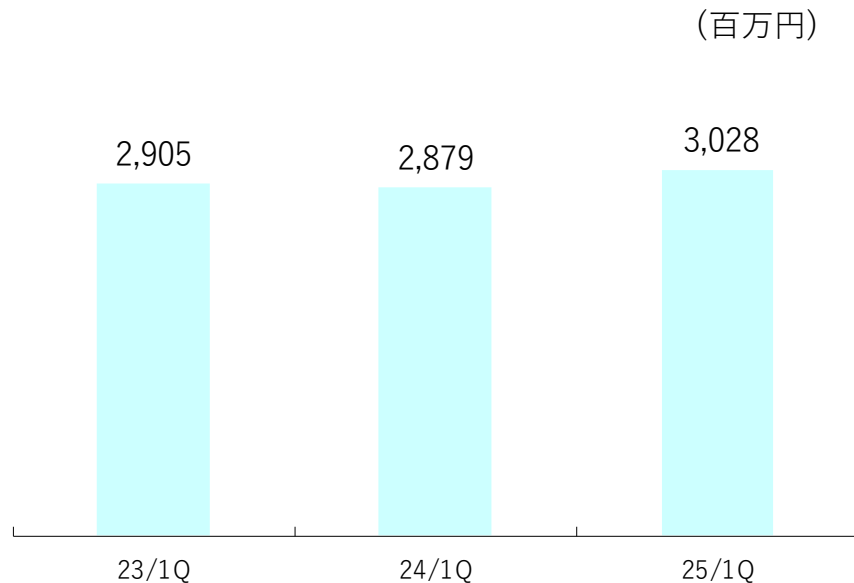
(百万円)



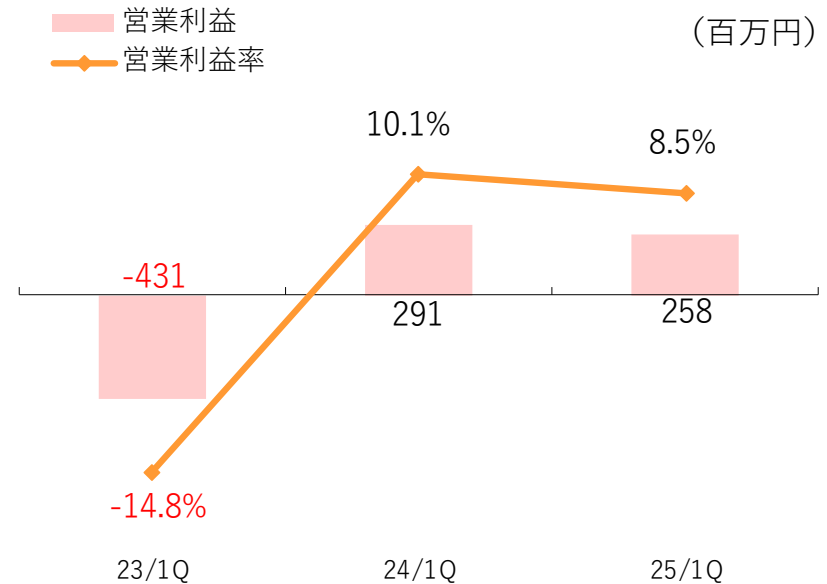
- 売上高：前期比+ 6.7%、A4原稿サイズのLBP販売が堅調に推移
ドキュメントスキャナーは北米で在庫調整が進んだ他、インド・中南米で金融機関向け商談が好調
- 営業利益：前期比▲13.6%、為替影響、部材高騰、人件費増加によるコストアップ、ドキュメントスキャナー販売構成変動により利益減少

セグメント情報 その他

売上高



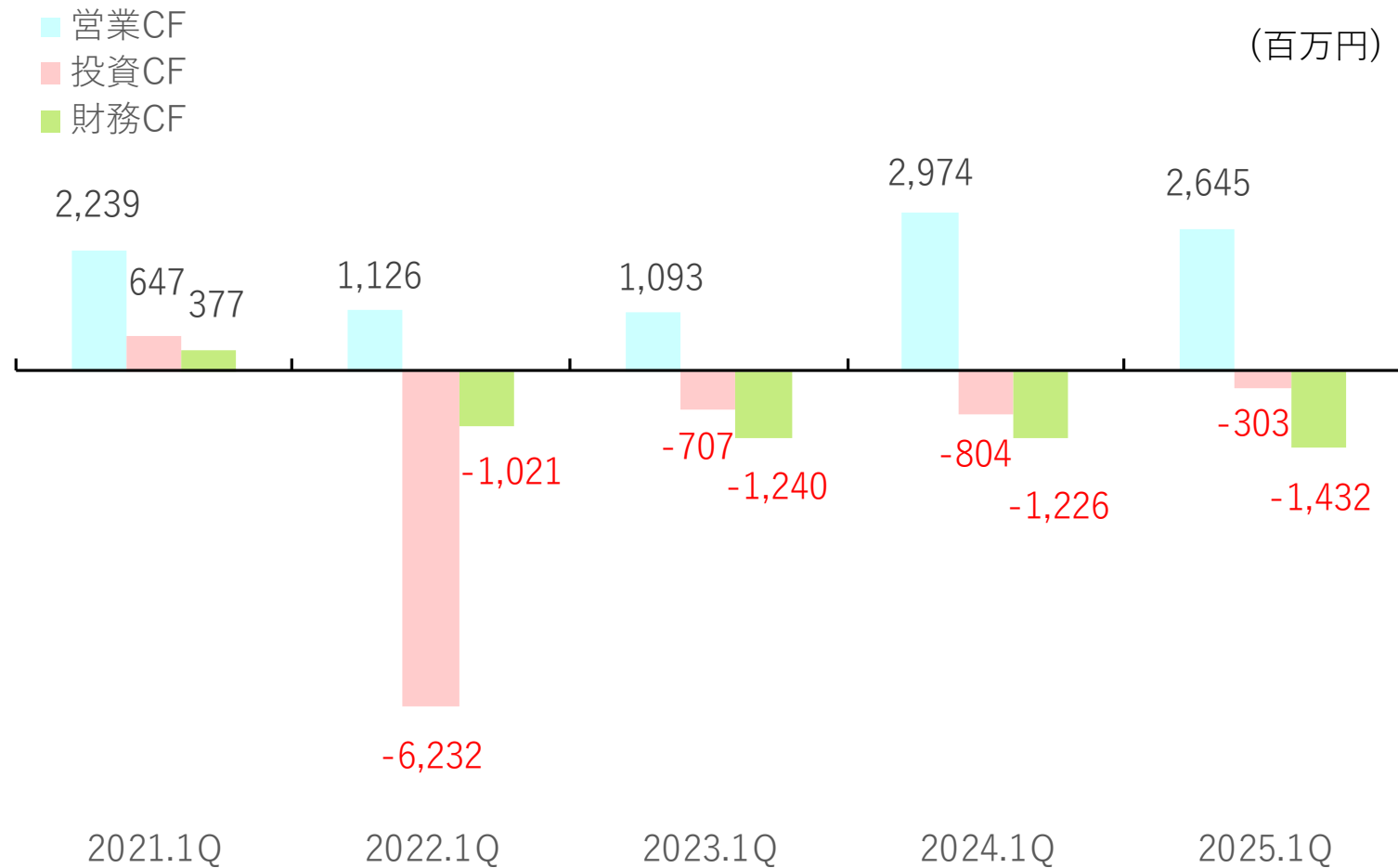
営業利益



- 売上高：前期比+ 5. 2 %、システム開発需要は高いものの、人材不足等により減収。一方、歯科用ミリングマシンは堅調に売上を伸ばし、生産装置関係の受注増加もあり全体として増収
- 営業利益：前期比▲ 1 1. 2 %、人件費増加等によるコストアップ、システム開発関連の減収により利益減少

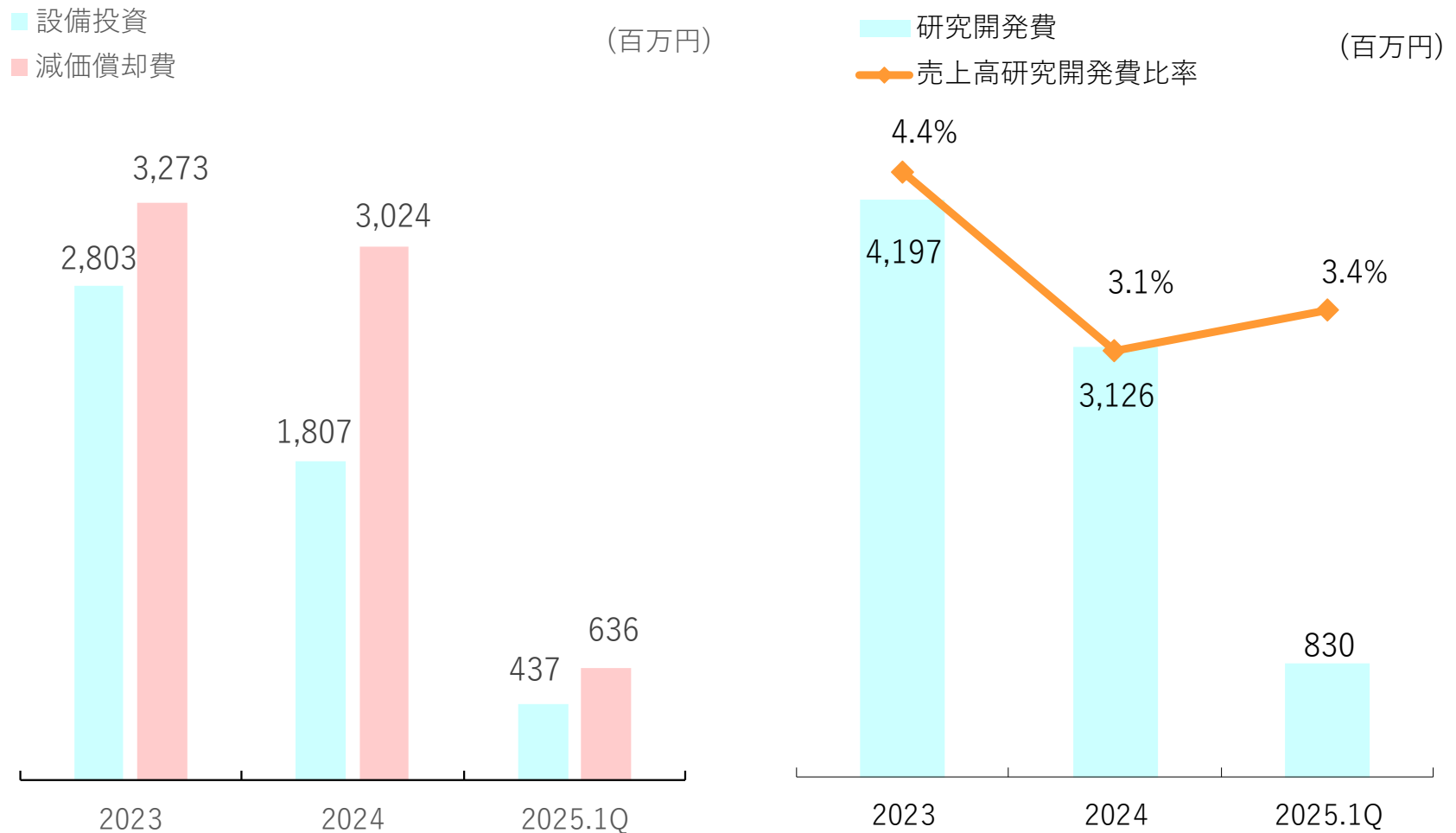
キャッシュフロー

- 成長投資、株主還元を行いつつ、それを上回る営業CFの確保を目指す



設備投資／減価償却費／研究開発費

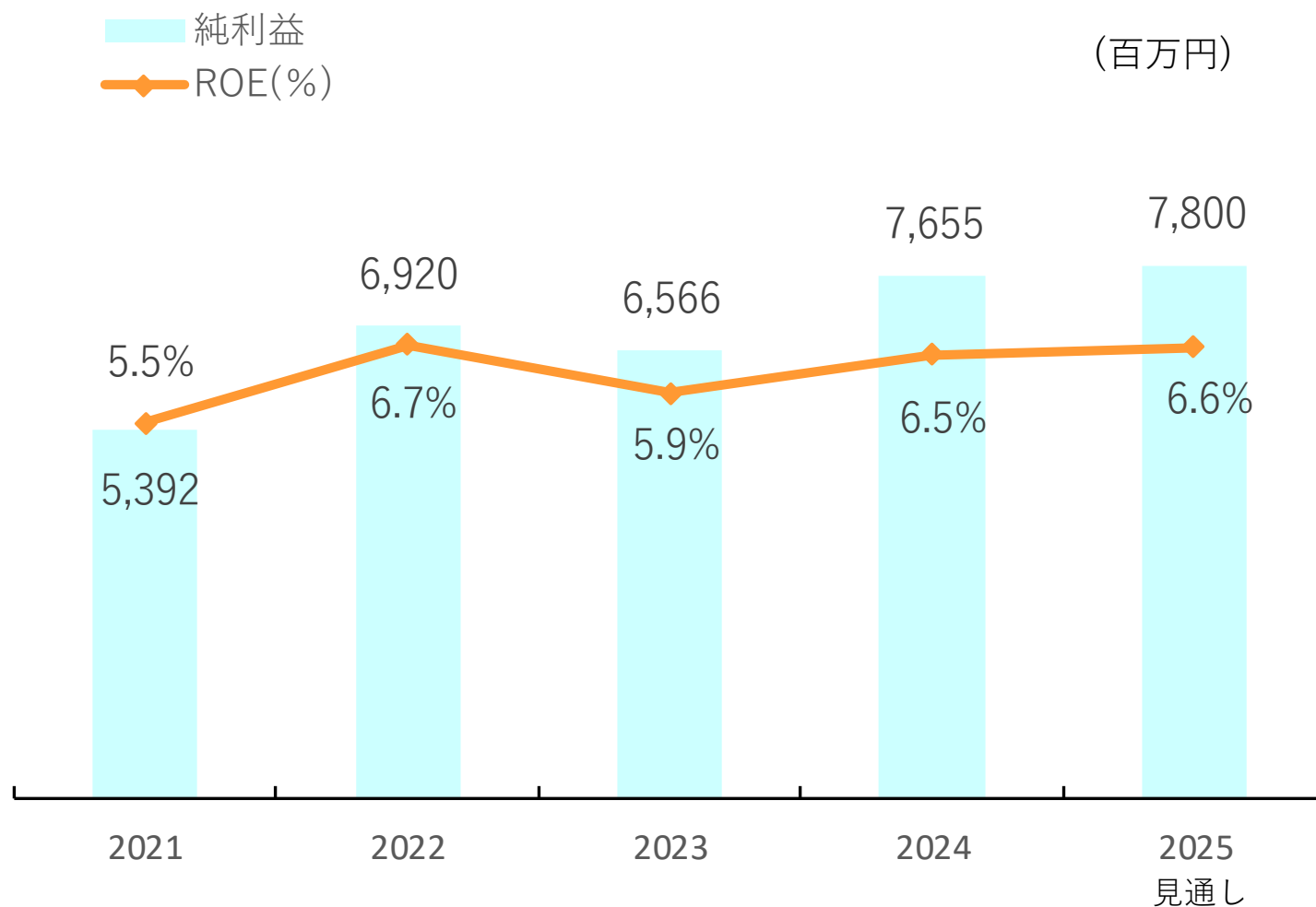
- 新製品・新規ビジネスの立ち上げ・衛星関連事業及び生産性向上のための設備投資、研究開発活動を積極的に行う



2 0 2 5 年見通し

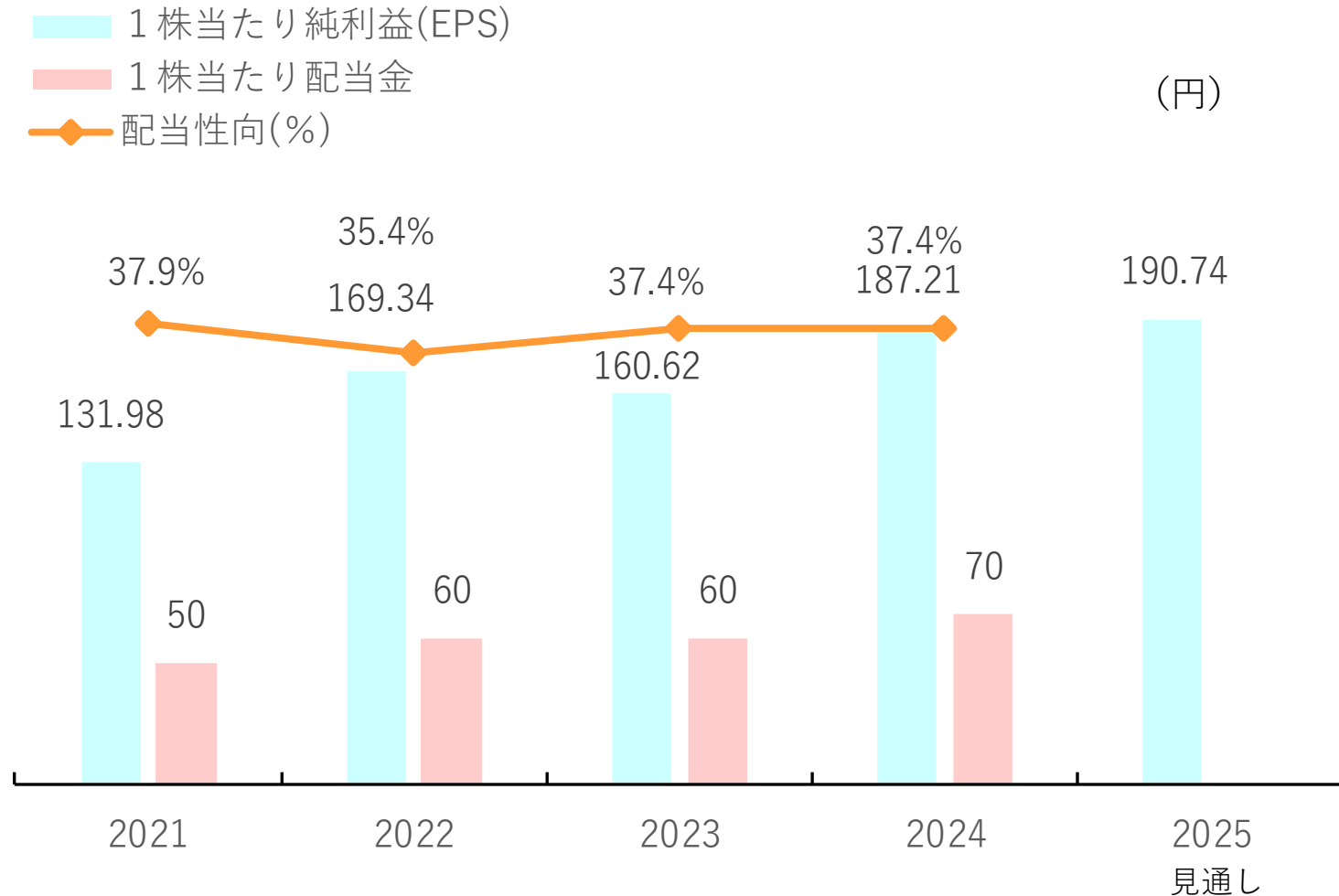
	24年年間 実績	25年年間 予想	(単位：百万円、%) 差 異	
			増減額	増減率
売上高	100,656	105,000	4,344	4.3%
売上総利益 (売上総利益率)	20,343 (20.2%)	21,000 (20.0%)	657	3.2%
販管費	9,945	10,000	55	0.6%
営業利益 (営業利益率)	10,397 (10.3%)	11,000 (10.5%)	603	5.8%
経常利益 (経常利益率)	9,877 (9.8%)	10,500 (10.0%)	623	6.3%
税引前利益	10,130	10,500	370	3.7%
純利益 (純利益率)	7,655 (7.6%)	7,800 (7.4%)	145	1.9%

- ROE 8 %以上を目標として、さらなる利益拡大・資産効率の改善に取り組む



EPS／配当金／配当性向

- 将来にわたる株主価値増大のために内部留保を充実させ、事業の積極展開・体質強化を図ることにより、安定した配当を維持することを基本方針とする



※2025年3月末時点において、1株当たり配当金及び配当性向は未定です。